

編集後記

「神戸に構築中の次世代スパコン「京」が TOP500 のランキングで一位!」、久しぶりにスパコン関係者にとって明るい話題がありました。ご存じのように、「京」の開発を巡っては、事業仕分けで予算が一時凍結されるなど、その開発の意義が問われ様々な議論がなされましたが、様々な困難を乗り越え、2位の中国、3位の米国のシステムに対して 3~4.5 倍の圧倒的な性能を示した「京」の開発は、日本のスパコン開発技術の高さを世界に示しました。

もちろん、TOP500 での一位は、単に「世界一の規模の道具」で有ることを示したにすぎず、これから求められることは、その「世界一の規模の道具」の能力を極限まで引き出し、様々な先端科学技術分野や安全・安心な社会構築において **only one/top one** の成果を生み出すことです。

現在、「京」と国内のスパコン資源を連携して最大の成果の創出に結びつける革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ(HPCI)の構築と利用を主導する場として「革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ(HPCI)コンソーシアム」の発足に向けた検討が行われています。この中で、全国の基盤センター群は、神戸の理化学研究所と連携して、ワンストップでこれらのセンターが運用するスパコンサービスが受けられる HPCI のテスト環境の構築を、本年 10 月を目標に進めています。HPCI により研究室レベルの計算環境から基盤センターレベルの計算環境へ、さらには「京」のレベルの計算規模へとシームレスに利用環境の拡大が行えると共に、全国の様々なスパコン資源を有機的に連携させて活用することができ、スパコン同機種・異機種連携シミュレーション、大規模データの広域共有活用、資源の有効活用、障害・災害時の信頼性向上などがなされ、新しいシミュレーション技術・スパコン利活用技術の研究開発などが進むものと思われま

す。我が国の計算科学者と計算機科学者のコミュニティが一同に集まる HPCI コンソーシアムの形成によりこの分野がより一層活性化され、多くの学生・若手研究者が集い、発展していくことをスパコン関係者の一人として大いに期待しています。(H.K)

東日本大震災から 4 カ月が経過しました。マグニチュード 8 クラスの余震が 100%に近い確率で発生するとの話もあり、余震のたびに思わず身構えてしまいます。また、現在センターでは震災後の節電協力のため、室内の照明は従前の約半分とし、エアコンを使用する際の室温設定は 28 度にしてあります。今号の記事で紹介されている利用相談室は 1 階にありますが、スパコンの一部が近くに設置されているためか、相談室前の廊下の温度は 24 度程度に保たれています。相談室はドアを開けておくとエアコンなしで充分快適に過ごすことができます。書籍も若干ですが今年度も補充いたしました。高速化や並列化の利用相談はもちろんのこと、計算機関係のマニュアル、計算機・ネットワーク関係の書籍などの閲覧も可能です。運がよければ飲み物のサービスもありますので、どうぞお気軽にお越しください。(K.S)



サイバーサイエンスセンター前
整備中の青葉山新キャンパス

SENAC 編集部会

小林広明 曾根秀昭 水木敬明 後藤英昭
江川隆輔 早坂哲夫 大泉健治 小野 敏
高橋洋一 斉藤くみ子

平成 23 年 7 月発行

編集・発行 東北大学
サイバーサイエンスセンター
仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3
郵便番号 980-8578

印刷 大成印刷株式会社